

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 11

千葉県立千城台高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

<p>本校への入学の意志と高校生活への意欲が明確で、人物が優れ、かつ次のアまたはイのいずれかに該当する生徒</p> <p>ア 学習成績が特に優れていること。</p> <p>イ 学習成績が優れ、特別活動・部活動等に顕著な実績を持ち、本校入学後もそれを生かした活動を行う意志のあること。</p>

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	原則として受検者6名・評価者3名の集団面接(1グループ10分程度)

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値に、イ及びエについて加点(上限35点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値を2倍にして評価する。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は6点を加点する。
ウ 行動の記録	○が2個以下の場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録、及び特記事項	特別活動の記録で生徒会・部活動・その他の記録を数値化して評価する。 ・生徒会活動(生徒会長6点、副会長・書記・会計5点として6点満点で加点する。) ・部活動の部長、各種実行委員長、応援団長(5点満点で加点する。) ・部活動の実績(県大会上位・関東大会出場を10点、県大会出場を8点、市郡大会上位を6点として10点満点で加点する。) ・顕著な資格等(8点満点で加点する。)
オ 総合所見	総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接 [15点満点]

3名の評価者が、次の3つの評価項目について、それぞれの各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価し、3名の評価者の評価の組合せ(a a a ~ c c c)ごとに得点化する。

面接の各評価項目の評価で(a c c), (b c c), (c c c)がある者は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活(学習・部活動等)に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望について、具体的に回答することができる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

- ア 「学力検査の成績」と「調査書の得点」の合計により順位をつけたとき、次のパーセント以内にある者は、入学許可候補者として内定する。
- (ア) 受検者数が予定人員以内のときは、受検者数の80パーセント
 - (イ) 受検者数が予定人員を超えるときは、予定人員の80パーセント
- ただし、調査書の行動の記録及び第2日の検査(面接)の結果等に問題となる点がないこと。
- イ 上記アで決まらなかった者については、「学力検査の成績」と「調査書の得点」の合計に「第2日の検査(面接)の得点」を加えた「総得点」で順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定(算式1)×2	加点	面接	
500点	$(135 + \alpha - m) \times 2$ 点	35点	15点	$(820 + 2\alpha - 2m)$ 点

(算式1) α : 県が定める評定合計の標準値95

m : 中学校評定合計平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。